



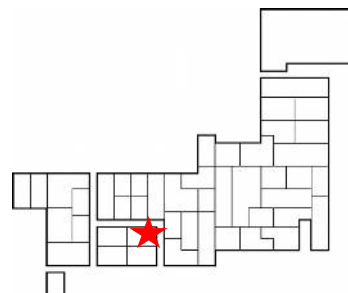
— 学食を地域食堂に、そして住み続けたいまちへ —

コミュニティ・地産地消部門

6次産業化

教育機関との連携

食育・教育



香川県 東かがわ市

【概要】

- 危機的な経営状況にあった高校の学食を、生徒と地元農事組合法人の協働のもと復活。地域の資源、食材の有効活用や地産地消に取り組み、高校生の食環境をよくしながら持続可能な経営を目指す。この活動を地域に広げ、単なる学食から地域の交流と食の発信の場となるよう取り組む。
- 生産から調理、販売までを農業法人が行い、最近イベント等の弁当も販売することで収入も安定。規格外の農産物や余剰品を調理することで、食品ロスを減らし高付加価値化を実現。また、他の高校の生徒の見学や交流、行政や飲食業者などの視察を積極的に受入れている。

【成果】

- 生産者、農業法人が消費者である高校生と直接繋がりがながらの六次化であり、良い反応を聞けることは生産者としての意欲の高まりにつながり、地産地消にも貢献。
- 生産者が教育の場に日常的に入ること、生徒は食の背景を考えることができ、消費者としての自覚がもてた。また、学食がまちのコミュニティの拠点となることで、生徒が将来地域コミュニティを支えるための実践的な学びの場となり、生徒の主体性が向上。学食運営における農学連携の新しいモデルケースとなった。



校内につくった畑での作物生産



地域の人が学食を利用



地域の飲食店が学食で提供する「一日食堂」